


# 令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立舞鶴支援学校 】

|               |   |
|---------------|---|
| 1 実践テーマ       | 【 V 】   |
| 2 実施対象者       | <p>中学部3組（8名）、7組（8名）</p> <p>高等部3組（6名）、4組（5名）、5組（5名）6組（7名）、7組（9名）、8組（8名）、9組（8名）、10組（8名）</p>   |
| 3 展開の形式       | <p>（1）学校における活動</p> <p>① 教科名（ 保健体育 ）</p>   |
| 4 目標<br>（ねらい） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラスポーツの種目を知り、体験する。</li> <li>・パラリンピックのトップアスリートから、直接指導を受けたり交流したりすることにより、スポーツを通じて「夢」「希望」を育む。</li> <li>・競技を通して人と関わる力を高め、互いに尊重し合い協力・共同することの大切さを理解する。</li> </ul>  |
| 5 取組内容        | <p>&lt;中学部3組・7組、高等部6～10組&gt;</p> <p>（1）車いすバスケットボール講習会</p> <p>「京のスポーツ夢バンク」を活用し、アテネパラリンピック車いすバスケットボール日本代表の阪根泰子さんに来校いただき講習会を実施した。</p> <p>①事前学習</p> <p>普段車いすに乗る機会のない生徒が多いため、実際に乗って操作してみる学習を行った。スラロームやスロープ、エレベーターなど様々なパターンや場所を設定して行った。</p> <p>②講習会当日</p> <p>最初の講話では、車いすの生活になった理由、車いすバスケットボールを始めたきっかけ、車いすバスケットで使われる車いすの特徴、ルールなどの説明をしていただいた。</p> <p>体験では、リレーを通して車いすの操作に慣れ、実際にゲームも行った。初めて車いすバスケットをする生徒が多かったが、ルールを工夫することで全員が楽しんで活動できた。</p> |
|               |   |

|                       |   |
|-----------------------|---|
|                       | <p>③事後学習<br/>       講習会を振り返りながら、阪根さんに感想やお礼のメッセージを書いた。また、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」オリンピック・パラリンピック教育推進校児童・生徒アンケートを実施した。</p> <p>&lt;高等部3・4・5・6・7・8組&gt;<br/>       (1) シットイングバレーボール<br/>       バレーボールを使うと難しい生徒が多いため、風船バレー用の風船を使いラリーが続くように工夫した。慣れてくると、ビーチバレーボールに替えてスピード感を出した。<br/>       ルールは、全員が触ってから返球するというルールを取り入れ、徐々にタッチネットやオーバーネットなどの細かなルールも導入していった。</p>  |
| 6 主な成果                | <p>「京のスポーツ夢バンク」でアテネパラリンピック車いすバスケットボール日本代表 阪根泰子さんに来校していただき、パラスポーツを知り、体験することができた。</p> <p>また、競技を通して人と関わる力を高め、互いに尊重し合い協力・共同することの大切さに気づき理解する機会となった。</p> <p>講習会終了後には、「車いすバスケやりたい!」という声が多く聞かれるなど、興味・関心をもった生徒が多くいた。</p>   |
| 7 実践において工夫した点 (事業の特色) | <p>車いすバスケットボールでは、車いすが10台ということや、コロナウイルスの感染対策も含めて2つのグループで実施した。生徒の実態に合わせてグループ編成を行うとともに、講話の内容やルール説明の仕方などは阪根さんと事前に打ち合わせを行い、実態に合わせて変更していただいた。</p> <p>ゲームでは、ルールを工夫することで全員が活動することができた。</p> <p>シットイングバレーボールでは、ルールを簡略化することで全員が活動できるよう工夫した。バレーボールではなく、風船やビーチバレーボールを使ってラリーが続くようにした。</p>   |
| 8 主な課題等               | 特になし  |
| 9 来年度以降の実施予定          | <p>来年度も「京のスポーツ夢バンク」を活用して、体験できる活動を計画していく。本校に障害者スポーツ用車いすが10台あるので、活用できる取組を多く企画していく。</p> <p>また、パラスポーツを通して学部間や地域の学校との交流も深めたいと考えている。</p>  |